

東北大学グローバル COE 拠点リーダー会議から総長への要望書

平成 22 年 2 月 15 日

政権交代により平成 21 年 9 月に発足した新内閣の方針により、高等教育関連の予算の見直しが図られました。行政刷新会議の事業棚卸し（いわゆる事業仕分け）において、国民に公開された議論を通じて予算の縮減や見直しが行われたことは、行政の透明化をはかるといふ意味において新しい取組ととらえられますが、一方、この仕分けおよび引き続く広範な議論のなかで、高等教育・人材育成の中心と自負していた大学と科学者社会の、一般国民の理解と支持をえるための努力が不十分であったことも明らかになりました。とくに、グローバル COE (GCOE) プログラムに関しては「大幅な削減」という結論が示され、平成 22 年度の予算に関しては、これまでの間接経費もしくはそれ以上に相当する額が減額される見通しとなったことは、今後の事業を非常に制限しかねない問題となっています。

東北大学では、平成 19 年度および 20 年度に自然科学系・人文社会科学系の計 12 の GCOE 拠点が立ち上がり、最先端の研究現場において優秀な大学院生や博士研究員を育成し、国際的な人材を輩出する中心としての役割を担っています。個々のプログラムは拠点ごとに特色がありますが、どの GCOE 拠点においても高等教育・人材育成に必要な経費を効率よく運用することにより、大学のシステム改革を推進しています。また東北大学としても 21 世紀 COE や GCOE と連携をはかった「国際高等研究教育機構」を設立することにより、より学際的・融合的な研究を行う人材の育成に組織的に取り組みつつあります。

東北大学の建学の理念においては「門戸開放」が謳われ、多様な人材を受け入れ、育て上げて、社会に輩出することが重要視されてきたという歴史があります。今回、平成 22 年度 GCOE 予算の大幅な減額が為されたとしても、本学で育成する優秀な大学院生・博士研究員等の若手人材が、これまで同様、あるいはそれ以上に大学からの支援を受け、東北大学によって育てられたことに誇りと感謝の念を抱きつつ、それぞれの学術分野における研究に邁進できるよう、総長および大学理事会には一層のご配慮をお願いしなければなりません。

我々が育てた人材は、将来必ずや、学術および産業の各分野において重要な貢

献を果たし、やがては東北大学、日本、そして、世界をリードすることが期待されるものであり、21世紀におけるリーディング・ユニバーシティとしての東北大学の中核となると確信しているものです。是非、特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

生命科学分野：脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点（大隅典子）

化学・材料科学分野：分子系高次構造体化学国際教育研究拠点（山口雅彦）

化学・材料科学分野：材料インテグレーション国際教育研究拠点（後藤孝）

情報・電気・電子分野：情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点（安達文幸）

学際・複合・新領域分野：新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点（山口隆美）

医学系分野：Network Medicine 創生拠点（岡芳知）

数学・物理学・地球科学分野：物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開（井上邦雄）

化学数学・物理学・地球科学・材料科学分野：変動地球惑星学の統合教育研究拠点（大谷栄治）

機械・土木・建築・その他工学分野：流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点（圓山重直）

社会科学分野：社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開（佐藤嘉倫）

社会科学分野：グローバル時代の男女共同参画と多文化共生（辻村みよ子）

学際・複合・新領域分野：環境激変への生態系適応に向けた教育研究（中静透）